

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第3四半期の総来館者数は、同期で開館以来2番目に少なかった。その要因として、第3四半期の企画展示・上映の主たる来館者層であった若い世代の来館者数が想定を下回ったことが挙げられる。展示事業は同期比で過去最少の来館者数となり、また、上映事業は、同期比過去最多の上映回数であったが、上映1回あたりの入場者数は平均30名に留まった。

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・通常の設定保守・点検等が適切に実施されている。
- ・館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。

● 資料等の維持管理

- ・施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・事業計画どおり、通常展や映画事業を実施している。
- ・展示事業では、9月中旬から継続して特別展「映画衣裳デザイナー・黒澤和子の仕事」を開催した。現在も映画界の第一線で活躍する衣裳デザイナーの仕事を通して「映画衣裳」の世界を紹介する展示を行い、若年層の来館が増加した。12月下旬からは通常展「巨匠が愛した女優たち」を開催した。
- ・上映事業では、黒澤和子氏が映画衣裳に携わった作品を上映するとともに、市民団体の協力の下、かまくら世界映画週間としてイタリア映画の上映とイタリアの映画祭最高責任者によるトークイベント等を開催した。また、シネマセレクションとして「家」や「暮らし」に着目した作品を上映する等、幅広い作品の鑑賞機会を提供した。シネマセレクション期間中に2回のバリアフリー上映(音声ガイド+日本語字幕付上映)を行い、視覚・聴覚障害者の映画鑑賞の機会を上げた。

● 調査、研究及び情報提供

- ・映画関連資料の調査及び研究を行った。また、国立フィルムセンターをはじめとする関係機関や施設との情報交換等を行い、最新の映画関連情報の収集に努めた。
- ・情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。また、映画上映時に配布している各作品の概要をまとめたリーフレットを綴じて、誰でも手に取って見ることができるよう配架した。
- ・今後の企画運営に活かすため、記念館職員が文化庁主催のミュージアムマネジメント研修を受講し、美術館・博物館等を取り巻く社会動向として訪日外国人観光客へのアプローチ等について学んだ。

● 広報及び宣伝等

- ・市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載している。さらに、庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等へ情報を提供した。
- ・チラシの配架及びポスターの掲示等によるPRにより記念館の広報及び宣伝等に努めた。

#### ● その他の事業

- ・講演会については、特別展「映画衣装デザイナー 黒澤和子の仕事」に合わせて黒澤和子氏によるトークイベントを開催し、チケットは完売であった。当日、交通機関のトラブルが発生したことにより開始までに到着できない方もいたが、トークイベントは黒澤和子氏の配慮で15分遅れで開始され、チケットを購入していたほとんどの方が聴くことができ、好評を得た。
- ・冬休みに親子で楽しめる映画作品の上映とワークショップを実施した。市民団体の協力を得ることで、未就学児でも参加できる事業とした。午後の小学生以上を対象とした部では、フィンランド人作家の作品「ムーミン」を上映後、市内在住のフィンランド人の方をゲストに迎え、フィンランドの文化等について話を聞くことのできる貴重な機会を提供した。

#### 4 その他市長が定める業務等

##### ● 事務処理

- ・例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。  
10月分:11月9日、11月分:12月13日、12月分:1月12日提出
- ・利用者からの声に対しては迅速に回答し、管理運営に反映させることを検討している。

##### ● 事故・苦情対応

- ・事故なし
- ・12月に受付対応に関する苦情が1件あったが、内部研修を実施し、全職員が共通の対応を行えるよう改善を図った。

##### ● その他

- ・近隣文化施設4館連携事業として「ミュージアムめぐりスタンプラリー」を実施した。
- ・紅葉の季節である12月に、来館者を対象に「季節の庭園公開」を行った。紅葉はあまり色付かなかったが、庭園という魅力を有効活用し、記念館のアピールに努めた。

#### 5 全体評価

- ・第3四半期の来館者数は、同期で開館以来2番目に少なかった。展示・上映共に、近年の作品を多く紹介し、若い世代をターゲットとしたが、結果として若い世代の来館者数が想定を下回ったことが主な要因と考えられる。幅広い世代に記念館の認知度が高まっていることは望ましいので、記念館の主たる来館者である高齢層と若年層をどちらも呼び込むことのできる企画を今後の課題として検討していただきたい。展示・上映以外でも、未就学児を含む子ども向けのワークショップを続けてきた結果、徐々に親子で楽しめる施設としても認知されつつある。市民団体等と連携しながら、今後益々、多世代に親しまれる施設となっていくことに期待したい。
- ・施設の維持管理などの業務に関しては、細やかな報告が概ね徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。